

子

私は、二十四ページの六行目の言葉が一番いんしょうにのこりました。理由は、ゆうのうの助っ人さんはかっぱの親子の父親だったということに、おどろいたからです。

あと、二十四ページの十二行目の青い月の光に照らされた親子カッパがおかを下っていくすがたがのおおばさんには、はつきり見えるような気がしたのです。という言葉が私には最初、見た時は分からなかったけど、どんどんよんでいくたびに私はその言葉が分かる気がしたのです。この本の物語は、色んな感情があるすてきな物語だと思います。

親

親子読書感想文という課題をするにあたって、まずベッドで二人横になって一緒に本を読むという時間の貴重さが身にしみました。

仕事で一緒に過ごせる時間が少ない為、子どもの話をゆっくり聞けて考えていること共感出来、成長を感じました。話した内容としては、私達親子二人は、親子カッパの様に、さりげなく誰かの為に優しく出来る人間になりたいねと意見が一致しました。誰かに、御礼を言ってもらおう為であったり、自分に優しくしてもらおう為では無く、感謝の気持ちを持ただ伝える為にとったカッパのお父さんの行動は、人生の灯台の様です。

自分のことより人のことを考えて動けるのおおばさんを始め、こんな素敵な人達の生き方を模して、周りの人達を笑顔にしたいです。

子

イエンシッド先生とミッキーマウス弟子のやりとりを読んで私は、有名な曲 まほう使いの弟子は、一八九七年に初めて発表されたことに、こんな昔からある曲なんだと思いました。私もまほう使いの弟子を聞いてみたいと思います、その内ようもちよつと気になりました。私は、ミッキーマウスがこれをしたらこの後どうなるのかを考えられていないので、しゅぎようが足りないと思います。この本を読んだので、先のことを考えながらやらないといけないということが学べたので、生活に活かそうと思いました。私はミッキーマウスがまほうを上手に使えるようになればと思いました。

一緒に読んで、これから色々な機械や道具はべんりかもしれないけど、使い方に気を付けながら考えて使おうと思いました。

親

まほう使いの弟子という音楽をミッキーマウスが演じることでイメージしやすい内容でした。劇が無く、演奏を聴くだけでどれくらい想像できるか確認したいと思います。このお話の大事なところは、まほうを使うことではなく、まほうの使い方を学ぶ必要があったところ、ミッキーはおぼれていたかもしれない。一つ一つの行動がどんな結果につながるのか考えることも、本文中にある修行にあたるものかもしれません。私達の身の周りにも、ハサミや機械など便利なものは多くありますが、まほうと同じで使い方次第では危なくもなりません。子供達には、本を通して想像する力を育み、色々なことにチャレンジしてもらいたいと思いました。

子

ぼくは、初めこの本の表紙を見た時、ミッキーがまほう使いになって色いろなまほうを使う明るくて楽しいお話だと思いました。でも、読んでみると、ミッキーがイエンシッドと言うまほう使いの弟子になるげきのお話で、まだ修行が足りないと言われたのに勝手にまほうのほうきを使つて地下室が水の海になってしまいました。さい後は、イエンシッドが帰つて来て元通りにしてくれました。

ぼくも、お父さんやお母さんに「危ないよ。」とか「今はしないで。」と注意されたことをやってしまったことがあります。

だから、この本を読んで、注意されたことはちゃんと聞いて、勝手に決めずに、しっかり考えて行動しようとお母さんと話をしました。

親

作中でミッキーが「終わらせることが、できないものを始めてはならない」ことを学んだとある様に、目先の楽しさだけでなく、最後まで責任を持つことの大切さについて話をしました。今の社会では、危険な事でも危険ではなく、ただ楽しいように思わせる事がとても簡単にできて、子どもでも手を出し易い環境です。もし、危ないと感じたなら、迷わず助けを求めて欲しいと合わせて話をしました。

親としては、心配な反面、色々な事に興味を持ち挑戦し、失敗してもそこから学んで欲しいとも思います。口を出す・見守るの見極めが難しいところです。

子

小学生の時、クビナガリユウは図かんでみていたから、大人になってクビナガリユウを発見したいと思ってたくさんの人の力をかりてクビナガリユウの発見ができて感動しました。もし、鈴木さんが発見していなかったらフタバスズキリュウの発見がされていなく、そのまま地底にねむっていたのかもしれない。

親

鈴木さんは、小学生の時からクビナガリユウにきょうみを持ち、その本をよく読んでいたね。化石が好きで中学生になると科学クラブに入り、きょう味がある事を突きつめていきました。それを行動にうつし、化石の採集で知りあつた方の力を借り、夢だつたクビナガリユウの化石を発見する事ができましたね。好きな事に夢中になり、それをつづけていったからこそ、フタバスズキリュウの発見につながつたと言えるでしょう。

「まほう使いの弟子」を読んで

四年生

ミッキーマウスがまほうを使っているようなその本の表紙の
ミッキーマウスがまほうを使って楽しそうに、わたしは

「まほうつかいの弟子」を選びました。

それは青色をしたとんがりぼうしで、星と月のもようがあ
りました。

かれがこのぼうしをかぶれば、かなえたいことを頭に思い
うかべて、念じるだけでじつげんすることができました。

この文が一番心に残った文で、ふしぎだと思ったことです。
わたしは、この本を読んで終わらせることが、できない

ものをはじめてはならないことを学びました。

これからはわたしも、終わらせることができないうものを
始めてはならないという行動ができるようになりたいです。

「ほんとうに大いそがし！菜の花荘」を読んで

四年生

子の感想

私は、「菜の花荘が大いそがし」を読んでびっくりしました。
なぜなら、こんなにすごい民宿だったからです。

一つ目は、菜の花荘のスタッフが三人ではなく、三匹だった
ことです。スタッフは、犬のムク、九官鳥のサンバ、黒ぶちね
このボンタです。三匹とも役目があります。

私のお気に入りには、ボンタです。私は、おっとりしたとこ
ろが好きです。

二つ目は、民宿の主の、のおおばさんの性格が、ありえな
いくらい、人思いなところなんです。なぜなら、買い出しが一回
ですむように、しっかりとメモしてあったのに、泣いている
子供のために、買った物をあげてまで助けて、二回も買い出
しに行ったのがすごいなと思いました。そして、家にたどり
着いて、ごほうのみやこさんからののがきが待っていて、
良かったね、と共感しました。そして、一番面白かったのが、
カッパの親子がのおおばさんにおん返ししたところなんです。

初めにのおおばさんが助けた子供がのおおばさんを、いそが
しさからすくったところが感動しました。

私はおおばさんのように、年を気にせず、元気で人思い
で、おん返しされる人……には……なれないかもしれない
けど「やさしい人」という目標で、人生にいどみたいで
す！

「菜の花荘が大いそがし」を読んで

四年生

母の感想

このお話は、人物像がとてもユニークに細かに描写してあり、思わず自分の家族を登場人物に当てはめながら楽しく読み進めることができました。

中でも、私のお気に入り的人物は二人です、（正確にはひとり一匹ですが）

まず大好きになったのは、猫のボンタです、民宿のスタッフと言っても特にこれと言って何もしません。

仕事と言えどすれば、仕事を終えた後の、のぶおばさんと

「ほっとする時間」を共有すること。なんって素敵な相棒なんだ！と思いました。自分の思うままにさせてくれて、でもちよっとした喜びや悲しみなんかをそばに居て、共有してくれる。昔からわりと放任で好きにさせてくれた私の母にしているなあと思いました。改めて。私も家族にとってボンタの様な存在になりたいな・・・と思いました。

そして、どんなに大忙しな時も「だれかのため」の時間をおしまないのぶおばさん。まさに私の義母にそっくりなんです。

義母は67歳ですが未だに現役教師としてパワフルに働いています。にも関わらず休日になると、私の10歳の娘と1歳の息子を預かり子守をしてくれたり、時に私たち夫婦のために手料理をふるまってくれたりします。その料理がまたとびつきりおいしいのです、また捨て猫を拾ってきて育てている。それも二代目のマリは人間でいう80歳「お互い年をとったねえ」と言いながら、毎日2人（一人と一匹）で暮らしています。

まさにのぶおばさんそのもの、きっとのぶおばさんも義母のように三匹の動物たちを引き取って育てていたのではないかな？と思わず想像してしまいました。

のぶおばさんや義母のように、カッコいいおばちゃんにはなれないにしても、ひたすら目の前の事を一生けん命がんばっていたら、もしかしたら、カップの親子的なだれかや何かとの素敵な出会い（こほうび）が待っているのでは？とほんのり夢をみながら、私の大好きな二人の母を目標にまたがんばっていきこう、と心を新たにしています。